

原子力安全に向けて（決意）

1999年（平成11年）9月30日に発生した株式会社ジェー・シー・オーにおける臨界事故では、従業員2人が亡くなられ、事故対応に当たった東海村職員を含む関係者、周辺住民など663人が被ばくする未曾有の大きな災難となった。それから20年——この間には、原子力防災に係る法制度の充実・強化があり、原子力利用における数々の改善・取り組みは、オンサイト・オフサイトの両面で進められてきた。

しかしながら、2011年（平成23年）3月には、東京電力株式会社・福島第一原子力発電所事故があり、原子力に対する国民の信頼は大きく後退した。そして、その後も原子力事業所・施設での事故等は繰り返され、人々の不安・不信感を募らせている。今、原子力の分野において強く求められるのは、安全文化の醸成とその意識徹底、現場力の強化であり、「安全が何よりも優先する」という原点を一層深く浸透・追求していくことである。安全に終わりはない。

私たちの東海村には、60有余年にわたる原子力の歴史が刻まれている。原子力安全を希求する精神は、万人共通のものであり、「JCO臨界事故」の経験を後世に伝える使命がある。本日の「東海村原子力安全フォーラム」の開催が一つのモーメントとなり、すべての皆様とともに、原子力にしっかりと向き合い、弛まず直向きの努力を積み重ねていくことをここに表明する。

令和元年（2019年）9月7日

東海村長 山田 修